

問

市長就任から1年、市民との対話をどう市政に活かしたか「対話型市政」の自己評価を伺う。
真摯に対話を尽くす姿勢を貫き、市民や関係当事者との建設的な議論ができる環境づくりに努めている。

答



市長就任1年を迎えての所感について

問

前例踏襲に捉われず若手職員の提案や挑戦を市政運営に反映できる組織づくりについて、市長の認識を伺う。

答

鹿角市人材育成基本方針を掲げ、一人一人の能力を最大限に引き出し、挑戦を称え支援する組織づくりに努めている。若手職員の提案が組織成長につながるよう、人材育成と組織運営の両面から取り組みを進める。

空き家対策は「雪国仕様」になっているか

問

空き家からの落雪や積雪時の道路閉塞について市への通報件数や対応状況を伺う。また通報があった場合、所有者や管理者に対し、改善や適正管理に向けた通知・指導等をどのように行っているか。

答

空き家の落雪等に関する相談件数は降雪状況で変動し、大雪となった昨年度は40件の相談が寄せられた。市では現地確認後、所有者等へ早急な対応を求めるほか、生活道路が閉塞するなど緊急時には、市が応急的に除雪作業を行う場合もある。

質問した項目

- 市長就任1年を迎えての所感について
- 空き家対策は「雪国仕様」になっているか



録画配信はこちらから

安保 真希 議員（無会派）

質問時間 30分

問

プッシュ通知で即時性の高いLINEを活用し、熊の目撃情報を配信する考えはないか。7月を目処に、熊出没情報のLINE自動連携配信に向けた体制を整えていく。

答



職員による管内の現場把握について

問

複雑化する地域課題に対し、職員が現場に足を運び実情を把握することは施策の精度向上に不可欠である。市として職員の「現場主義」をどのように位置付け、課題や要望を施策に反映させる取り組みを進めるか。

答

数値情報だけでなく、現場での直接的な把握が真の課題解決につながると認識している。今後はアンケートや地域ミーティングをはじめ、市民との

住民ドライバー制度の導入について

問

部活動やスポーツ少年団活動に伴う保護者の送迎負担が増大しており、活動断念に至る事例もあるが、住民ドライバー制度を活用した送迎支援を検討できないか。

答

児童生徒の安全を確保するために特段の配慮が必要でありドライバーの運転技術や安全意識、トラブルへの懸念も考慮し、住民ドライバーの活用は慎重に検討すべきと考える。

質問した項目

- 今年度の除雪作業について
- 住民ドライバー制度の導入について
- 熊対策について
- 職員による管内の現場把握について



録画配信はこちらから

網木 裕一 議員（新時代かづの）

質問時間 30分